

金融論 A		講義	教授 田中 秀臣	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目, 会計ファイナン スコースの専門選択科目	科目ナンバリング	23220205	

1. 授業のねらい・概要

日々の生活の中で使われている貨幣(マネー)。マネーはどのようにして必要なのか、またマネーが私たちの生活の中でどのような位置をしめるのか、この素朴な疑問からはじめて、銀行などの金融システムの役割、貨幣の供給と需要、それらと中央銀行の役割の意味を理解していく。金融論の基礎から日本や世界経済の現実を理解するための必要最小限の知識を得ることをこの講義が目的にしている。ただし予備的な知識はいらない。必要な知識はその都度講義の中で丁寧に解説する方針である。できるだけ日常で話題になる経済的な出来事との関係を意識して講義をすすめていきたい。就職や将来の社会人生活のための必要不可欠な金融の知識の提供が本講義の最終的な目的となる。

2. 授業の進め方

指定した教科書などを参考に内容を時事的テーマもからめてわかりやすく説明していく。初心者でも予備知識なく金融の仕組みについて理解が深まるように講義は進行していく予定。また時々の時事的な問題も積極的に取り入れるので、授業計画の内容や順序は柔軟に運用する予定である。

3. 授業計画

1. 金融とは何か	9. 金融機関の機能
2. 貨幣と仮想通貨	10. 地方銀行の役割
3. 利率を考える	11. 銀行規制
4. 金融市場の仕組み	12. 伝統的な金融政策
5. どのように資産形成をすべきか?	13. デフレ回避と脱却の金融政策
6. 資産価格の初歩	14. インフレ率と失業率のトレードオフ
7. 企業の資金調達とMM命題	15. 金融危機の経済学
8. 金融機関の役割	

4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業の前に指定された参考資料を各自よく学んでおくこと。目安として1時間程度の学習時間が必要。

5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験実施後、レポートについては提出後に、標準的なレポートの書き方、求められたポイント、高得点のためのコツなどを解説する。

6. 授業における学修の到達目標

金融論の理論と制度、歴史の基本項目について、一通りの理解と習得ができていくこと。実際の経済を見る目の育成を目指す。

7. 成績評価の方法・基準

授業中の取り組み姿勢を重視する(50%)。期末には試験またはレポートを提出させて総合的に評価(50%)していく。

8. テキスト・参考文献

講義は以下のテキストを利用して行うが、できるだけ簡明な形で講義する。テキストを特に購入する必要はないが、手元に置いておけば講義の理解はさらに深まる。

田中茉莉子『金融論への招待』(新世社)

9. 受講上の留意事項

特になが、熱意をもつて金融論の講義を理解しようとする姿勢が重要である。また現実の経済の話題に常に注意を払ってほしい。疑問や議論があれば積極的に質問してほしい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。